

9/17 (金) 道の駅が地域発展に貢献

市役所で、県矢板土木事務所長から「令和3年度道路功労者表彰」を受賞した道の駅やいたへの表彰伝達式が行われました。この表彰は、(公社)日本道路協会が、道路整備の促進などに貢献している団体などを表彰するもので、道の駅やいたは、道路情報の発信や休憩施設としての機能のほか、レストランでの地産地消や、特産物の「矢板ブランド化」など地域発展に寄与していることが評価され受賞となりました。齋藤市長は「道の駅を地域振興施設として価値を高めるとともに、防災機能の強化に努めたい」と話しました。



▲(左) 県矢板土木事務所 星野 見秀所長

9/24 (金) 元気な地域づくりに向けて

市役所で、市と明治安田生命保険相互会社との「包括連携協定」が締結されました。本協定は、市民の健康増進やサービス向上などを目的に締結され、今後、まちなか保健室の健康相談などの充実や、来年開催される国体への協力などで連携していく予定です。齋藤市長は「協定締結を契機に、さらなる地域社会の発展につなげていきたい」と話しました。またこの日は、同社から市へ新型コロナ対策のための支援金が寄附されたほか、いちご一会とちぎ国体矢板市実行委員会へ協賛品を提供していただきました。



▲(右から) 明治安田生命保険相互会社 宇都宮支社 泉谷 直樹支社長 矢板営業所 益田 圭司 営業所長

10/1 (金) 学び舎の新たな門出

旧西小学校で、HCCソフト(株)研究開発センターの開所式が行われました。旧西小学校は、地域経済の活性化と市の発展に寄与する施設として活用することを目的に企画提案型の募集を行い、ソフトウェアやドローン開発などを手掛ける同社が選定されました。先端技術を有する同社の強みを生かし、市が掲げる「時代に即した産業の振興」や地域への貢献が期待されます。開所にあたり大川 裕章社長は、「思い入れのある学び舎で、地域と共に成長、発展していきたい」と話されました。



開所式には地元行政区長なども招かれ、長年地域に親しまれた学校の新たな門出を一緒に祝いました。

▲今後も施設の整備を進め、来年4月には、「矢板スポーツテック&ドローンフィールド」がオープンする予定になっています。

10/2 (土) 緑いっぱい郷土目指して

山の駅たかはらで、秋季緑化運動「苗木配布会」が行われました。これは、緑に親しみ健全で豊かな心を育む環境づくりと、快適で住みよい緑豊かな郷土づくりに向けて県、(公財)とちぎ環境・みどり推進機構、市が連携して開催し、家庭の緑化推進を図るためにミツバツツジやブルーベリーなどの苗木を配布しました。併せて、「緑の募金」への呼びかけを行い、多くの方が募金に協力していただきました。苗木を受け取った方は、「さっそく庭に植えて、家族みんなで大切に育てたい」と話してくれました。



10/5 (火) 県下一のりんごを守る

旧長井小学校校庭で、「りんごパトロール」の出発式が行われました。この取り組みは、県内で野菜や果樹などの盗難が多発していることから、旬を迎える矢板のりんごなどを盗難被害から守ろうと、矢板警察署・泉駐在所連絡協議会・たかはらパトロール隊・市が協働し、市内農家への注意喚起や防犯パトロールを行うものです。注意喚起のチラシを受け取ったりりんご農家の方は、「過去にりんごの盗難被害も発生している。重点的に警戒してもらえるのでとても心強い」と話してくれました。



10/6 (水) 奉仕活動の利益を寄附

市役所で、寄附贈呈式が行われ「明るい社会づくり運動 那須りんどうの会」藤田会長から10万円の目録が手渡されました。同団体は、発展途上国の子どもたちへワクチン代を寄附するエコキャップ運動や、献血の協力・呼びかけなどの社会奉仕活動を長年に渡り取り組んでいます。今回、古紙回収などで得られた利益の一部を本市のために役立ててほしいと寄附されました。齋藤市長は「次世代を担う子どもたちのために活用させていただく」と感謝を述べました。



▲(右) 明るい社会づくり運動 那須りんどうの会 藤田 俊雄会長

Advertisement for optical services, including eye exams, contact lenses, and hearing aids.

Advertisement for a special campaign for high school students, including a car purchase and driving school promotion.